**佐賀県医療センター好生館（含佐賀県立病院好生館）を受診され、病理検体の採取がなされた患者さんへ**

　 (臨床研究に関する情報)

 当館では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、過去に手術や病理解剖をお受けになった患者さんで、診断や治療のために採取された組織や細胞の検体の余剰分を分析研究することによっておこないます。このような研究は、文部科学省と厚生労働省が共同で策定した「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)に従って、研究内容の情報を公開することが必要とされています。この研究に関するお問い合わせがありましたら、下記の【問い合わせ先】へご照会ください。

　尚、この研究は、当館倫理審査委員会(平成27年7月10日)で承認を受けています。

【研究課題名】

肺腫瘍における病変部、非病変部の網羅的検索を用いた包括的研究により日本人における病因の解明と人種間による治療感受性の違いの検討

【研究機関】

・研究実施場所：試料/情報等の取得を行う機関

機関名：佐賀県医療センター好生館

住　所：佐賀市嘉瀬町大字中原400

・ヒトゲノム・遺伝子解析の主たる実施場所

機関名：The University of Texas M.D. Anderson Cancer Center, Department of Translational Molecular Pathology, Thoracic Molecular Pathology Lab (Dr. Wistuba’s Lab)

　住　所：1515 Holcombe Boulevard, Houston, Texas 77030

【研究責任者】森　大輔　(佐賀県医療センター好生館　病理部主任部長)

【研究の目的】

肺癌は日米両方で癌による死因の第一位である。肺癌死亡率は依然として高く、 その理由は腫瘍の発見の遅れに起因することが大きな比重を占める。また早期発見につながるバイオマーカーの発見には、新しい概念に基づく詳細な分子生物学的アプローチによるメカニズムの解明が不可欠である。一方で近年、肺癌においてdriver gene mutationや異常遺伝子のamplificationなど（EGFR遺伝子、ALK融合遺伝子など）の解明が進むにつれて、分子標的薬が開発され、めざましい治療効果が挙げられつつあることは周知の事実である。

より生物学的な腫瘍のメカニズムの解明のため世界第1位の癌センターであるテキサス大学MDアンダーソン癌センター(The University of Texas M.D. Anderson Cancer Center: MDACC)ではField of Cancerizationの理論に基づき包括的に検体採取を行い、網羅的な解析が現在進行形で行われている。外科的切除もしくは病理解剖で得られた肺腫瘍の病変および気管支の組織を用いてレトロスペクテイブに網羅的に解析し、肺癌発生のメカニズムを深く知ると同時に白色人種と黄色人種、特有の発病メカニズムと治療感受性の差の原因を究明する。

【対象となる患者さん及び使用する検体】

1. 1994年から1997年までに当館で外科的切除を行われた肺がん患者さん
2. 2001年から2009年までに当館で肺がんが原因で亡くなり病理解剖を受けられた患者さん

【個人情報の取り扱い】

使用する検体からは、お名前や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は使用しません。

【補足説明】

なお、本研究への参加不同意を含むお問い合わせ・ご意見等はご連絡をお願いいたします。

【問い合わせ先】

佐賀県医療センター好生館　　病理部主任部長　森　大輔

　電話　0952-24-2171(代表)